

イラストの上達を促すオンライントレーニングの提案

—模写とトレスの活用—

学生番号:1732066 氏名:近藤和輝

指導教員:山崎治 准教授

1. はじめに

本研究では、イラストの上達を目的とした「模写」と「トレス」によるトレーニングの方法を提案する。イラストの初心者がぶつかるであろう問題点として「イラスト全体の構成・配置・イメージの把握」や「描画技術に関する詳細情報の獲得」を取り上げる。これらの問題点をそれぞれ「模写」と「トレス」のトレーニングを通じて解決し、初心者の上達を促していく。このトレーニングの形式はオンラインで行える内容を目指す。

2. トレーニング手法の提案

2.1 「トレス」によるトレーニング

トレスとは、模写と同様の対象をなんらかの方法で白いキャンパスに透かし、それをなぞる手法である。「線画」、「線の強弱」、「見えない情報」の3つの工程と注意するポイントを示したマニュアルを用意した(図1左)。

2.2 「模写」によるトレーニング

模写とは、既に描かれているイラストや写真などを対象に観察し、白いキャンパス上に対象と同じになるように描く手法である。「アタリ」、「おおまかな描き込み」、「全体像」、「清書」の4つの工程と注意するポイントを示したマニュアルを用意した(図1右)。

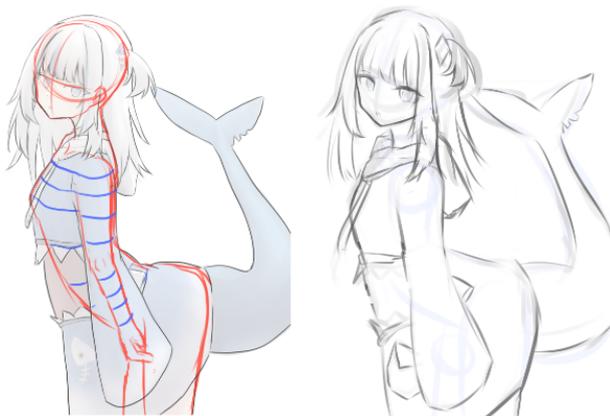


図1 トレーニングの工程(左:トレス/右:模写)

3. トレーニング手法に関する実験

模写条件とトレス条件のトレーニング実験を設けて、模写とトレスで学習できる内容の比較をする。

3.1 方法

実験参加者:イラスト初級者～中級者で4人を対象として実験を行なった。参加者は大学生で、デジタルイ

ラストの制作についてはサークル活動で経験があった。

手続き:実験は参加者個別に実施した。参加者は、実験者との事前ヒアリングを通じて、それぞれテーマのイラストを決めて、制作することとした。次に、模写課題とトレス課題に割り当てられたマニュアル(pdf)を参加者に送付して、個別のペースでトレーニングを行ってもらった。トレーニングのペースは目安として1週間以内で2回は行なってもらうこととした。作成したイラスト画像是、その工程ごとに実験者へ送付するよう依頼した。トレーニング期間の終了後、事後アンケートへの回答を依頼し、ヒアリングを行なった。

3.2 結果

表1に事後ヒアリングにおける「トレーニングによって得られたこと」の結果を示す。トレスと模写それぞれにおいてトレーニングの目標としていたことを獲得していることがわかる。

表1 事後ヒアリングの結果

| | トレーニングによって得られたこと |
|------------|---|
| 「トレス1」の参加者 | 線の強弱について考えられた ポージングについて考えられた 立体感を出せる構図について |
| 「トレス2」の参加者 | 見えない情報を捉えることから得られたことが生かされた 人間のパーツを直方体や球といった簡単な立体で捉えることが新しい認識だった |
| 「模写1」の参加者 | おおまかな形から全体像を取るのがバランスの調整がやりやすかった 大まかな形から取るのがやりやすかった 丁寧に描く部分とそうでない部分があることが分かった 色の付けかたで質感が変わるという気づき |

4. おわりに

今後の課題として、実験参加者のイラストの練度の幅を広げ、似た条件の参加者間の反応の違いを見る必要があると思われる。